

# 緑ネット通信 No.65

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆  
 年会費：1000円  
 口座番号：00170-9-696174  
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

## 松戸で初の試み

### 活動団体が一堂に会した「松戸みどりのフォーラム」

高橋 盛男

#### 緑推進委員会の市民委員企画で開催

「単なる説明会で終わらせるのは、もったいないよね」「皆さんに声をかけるのだから、それを意見交換や交流の場にもしたいな」。そんな会話が交わされたのは、松戸市緑推進委員会「みどりのサロン部会」(以下、サロン部会)でのこと。「松戸みどりのフォーラム」の企画は、そこからスタートしました。

現在、松戸市は次期「松戸市みどりの基本計画」の策定を進めており、緑推進委員会は市長の諮問を受け、計画策定にかかわる意見を求められています。第10期の緑推進委員会に設けられたサロン部会は、現行の基本計画の2008年改訂時に位置付けられた「みどりの市民力」の将来像を、どのように次期計画に反映させるかを検討するワーキンググループです。

みどりの活動団体より「次の基本計画の策定状況を知

りたい」という要望があったこと、そして多様なみどり関係の活動が増えていることから、計画策定作業の報告と併せた交流会の開催が発案されたのです。

千葉大学園芸学部の100周年記念戸定が丘ホールを会場に「松戸みどりのフォーラム」が開催されたのは、6月29日(土)。参加者はスタッフを含めて約70名。樹林地保全、花壇づくり、公園活用、子どもの自然体験など、参加・出展団体は31団体にのぼりました。

会場には、各団体の活動紹介パネルを展示し、まずは「コミュニケーションタイム」。自由に会場をめぐって展示を見て、当該の団体の方とおしゃべりを楽しんでいただく時間をとりました。

#### 会場を驚かせた学生たちの活動ネットワーク

プログラムのスタートは、園芸学部「みどりの回廊ワークキンググループ」(以下、回廊WG)の活動発表。回廊WGは、エディブルウェイやみんなの庭、援農、高齢者宅の庭の手入れ、環境教育など、地域活動や地域ぐるみの研究に取り組む学生グループのネットワークです。



会場にめぐらせた活動紹介パネルを前に交流タイム



学生たちも大人たちも互いの活動に興味津々



「今日は新たな発見があった」とほぼ皆が挙手

「そんな活動をしているのか」「すごい!」「えらい!」と、参加者からは驚きと賞賛の声が上がっていました。活動の内容については「みどりの回廊ワーキンググループ」でネット検索してみてください。

### ジャンルを超えた活動のつながりに期待

みどりの基本計画の報告では、みどりと花の課の職員が計画の対象となる市内の「みどり」を解説。現在、検討中の基本方針を紹介しました。その基本方針とは「暮らしを支えるみどりを築く」「ワンランク上のみどりをつくる」「『みどりの市民力』を豊かにする」「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」の4つ。具体的な施策の構築はこれからですが「どの方針も『みどりの市民力』なくしては成り立たない。(みどりの活動では)全国的にも評価の高い市民と行政の協働を、より大きく、強くしたい」と語りました。

みどり関係団体の活動発表は、1団体5分と短かったため、会場には「じっくり話をしたい」「もっと聞きたい」という雰囲気がありました。「このフォーラムに参加して得たこと、新しい発見はありましたか?」という問いには、参加者のほぼ全員が挙手。「たまに開催してほしい」という声も聞かれました。

閉会前のあいさつをした緑推進委員会の柳井重人会長は、策定作業の一環として行った市民アンケートの結果、みどりの市民活動について、一般の認知度が低いことに触れ「市民活動も縦割りの傾向があるのではないかと述べました。そして「これからはジャンルを超えた市民活動の連携が大切になる。互いの活動を知り、連携することで新しい何かが生まれる期待も高まる。このようなフォーラムを機会に、活動のつながり、広まりができていったらうれしい」とあいさつの言葉を結びました。

### 緑の基本計画とは

都市緑地法に基づき、市町村における緑地の適正な保全および緑化の推進に関する施策を、総合的かつ計画的に実施するために策定する中長期計画。松戸市では2020年を目標年次とする基本計画を1998年に策定(2008年改訂)。次期計画の策定は2021年を目途としている。

### 松戸の緑を未来につなぎたい

#### ちばの里山スクール「都市の里やまを知る」

藤田 隆

千葉県主催のちば里山スクールが6月12日(水)10時からゆうまつど(松戸市女性センター)会議室で開かれた。柏市、八千代市、船橋市からの参加もあり、参加者21名に加え16名のスタッフが集まった。この里山スクールは、地域の住民・企業・森林所有者が管理放棄された森林の整備の担い手となることで里山を活性化するという動きを支援するための事業である。

当日は千葉大学大学院園芸学研究所の柳井重人准教授、松戸里やま応援団の野口功代表二人の講義に加え、午後から関さんの森で実習するプログラム。

柳井重人准教授は「都市部の里やまの保全、利活用」について、「都市部の里やまは年を追うごとに縮小している。市民が緑と暮らす豊かさが感じられる環境づくり、里やまボランティアが樹林地の保全活動をしながら、地域の住民に理解してもらう仕掛けが必要だ。」と話した



柳井重人准教授

次に、松戸里やま応援団の野口功代表が「都市部の里やま活動とその課題」を講義した。松戸市のオープンフォレストは今年で8回目を数えた。4月の一週間だけの短い期間では市民に浸透するには不十分だ。最近は家族連れの訪問が増えて、少しずつ変化が見えてきた。市内18ヶ所の里やまフィールドの連携を強化して次の一步を踏み出したい。どう未来につなげていくのが課題だと結んだ。



野口功さん

午後から実習として関さんの森を訪ねた。関美智子さんは、先祖から引き継いだ森を未来の子どもたちのため



に残したい…と活動のきっかけを話し、関さん宅を貫通する道路計画決定から、迂回案の市道開通、特別緑地保全地区指定までの経緯を説明した。江戸時代から続く関さん宅の蔵の古文書、古民具などを展示するエコミュージアムとして未来に残す試みも続けていると結んだ。

関さんのお話の後、森を観察し、意見交換が行われた。



里やまの所有者の思いへの理解、里やま保全に必要な人材の掘り起こし、次世代の加入などについて意見が交わされた。また、松戸市の「里やまボランティア入門講座」を松戸里やま応援団の有志が企画運営していることには大きな意味がある、などの意見が出された。

## 松戸の里やま ステキだね！！

地権者さんのご理解とボランティアの頑張りと行政の協力によって、多くの市民が自然に親しむステキな体験をしています。オープンフォレストの後の里やま活動の様子を各森の活動報告やブログよりお借りして紹介いたします。



5月8日関さんの森で2年生76名が自然観察。

5月9日石みやの森で園児45名が初夏の森を散策。竹ポックリ、丸太渡りなどを楽しみました。

5月11日根木内歴史公園では根っこの会による田植え・餅つきイベントが開催され、五月晴れのもと100名を超える人たちが楽しく体験をしました。



5月11日秋山の森で Save The Green の「石窯ピザ in 秋山」は満員御礼！ボランティア手作りの石窯の出来栄は Good!



5月16日石みやの森で園児35名が初夏の森を散策。

5月22日八ヶ崎の森に園児44名がやってきて、森のお話を聞いてから森の観察、モンキーブリッジや竹ぼっくりで遊びました。



5月22日関さんの森に毎月都内から電車に乗ってやってくる園児は関さんの緑いっぱいのお庭で探検。見つけた筍を割ってみたり、木登りしたり・・・

5月23日しんやまの森に年長さん100名、今年もやってきました。森の探検、ハンモック、丸太渡り、子ども達はフィールドいっぱいに広がり目一杯楽しみました。



6月2日、19日、7月21日野うさぎの森でまつどあそびラボや読書応援団の皆さんが森で楽しく過ごしたり七夕の竹の切り出しをしたりしました。

6月4日秋山の森で Save The Green の「初夏の森遊び in 秋山」では葉っぱじゃんけん、森の福笑い⇒⇒など楽しい遊びがいっぱいでした。



6月16日みなみの森でこどもつとまつどの「自然体験教室」が行われました。

6月25日関さんの森で2年生の初夏の生き物探し

6月末から7月にかけて、七夕用の竹の切り出し、流しそうめんイベントの応援など目白押しでした。

学童クラブでの竹工作体験も大勢のボランティアが応援しました。

7月11日芋の作の森でヤマユリ鑑賞会



7月22日溜ノ上の森で「虫とあそぼう」実施

7月26日根木内歴史公園「虫ハカセになろう」



8月1日21世紀の森と広場の水鉄砲づくりイベントは里山Qメンバーが大活躍

8月4日に関さんの森で8月7日には野うさぎの森で、Let's 体験の中高生ら受け入れ



この後も三吉の森 Let's 体験受け入れ、森の子ども館「流しそうめん」、根木内歴史公園「工作教室」など、ボランティアの活躍で楽しい体験ができる夏のイベントがつづきました。

～しげんのコラム 41～

ラミーカミキリ

昨年6月、関さんの庭のムクゲの木に、見たことのない美しいカミキリムシがいた。ラミーカミキリである。“ラミー”とは、イラクサ科の繊維作物であるナンバンカラムシのこと。ラミーカミキリは、イラクサ科の植物やムクゲを食草としている。



ラミーカミキリ 2019.7.8 千駄堀

今年の6月18日、再び関さんの庭でラミーカミキリを目撃した。さらに、千駄堀(21世紀の森と広場)でも7月8日と10日に目撃している。

このように、昨年と今年になってラミーカミキリが目撃が続いたのは、温暖化の影響と考えられている。そもそも、ラミーカミキリは外来種で、本来はインドシナ半島北部から中国、台湾までが分布域。幕末から明治にかけて、ラミーの輸入にとともに、おそらく長崎あたりに入ってきたのであろう。

その後、分布域は北(東)に広がっていくのだが、その地域は冬季の平均気温4℃の線以南にはほぼ一致するという。国立環境研究所の「侵入生物データベース」では、国内分布域の北限(東限)は東京都になっており、千葉県には侵入したばかりのようだ。

それはそうと、今年の夏は異常に暑い。パンダやガチャピン似の、美しいラミーカミキリが見られるのは楽しい。しかし、温暖化はすでに後戻りできないところまで来ているのでないか心配である。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー50(観察学習会 69)

「ヒガンバナ咲く里山風景から巨木の森へ」

秋の日射しに映えるヒガンバナを觀賞し、里やまボランティアが活動する金ヶ作の巨木の森で、癒しの一時を過ごします。森の中でじっくりと樹木や野草と向き合い、身近なみどりを楽しみましょう。

9月18日(水) 9:30~12:30 (小雨実施) 参加費300円(会員は100円)

集合 新京成線 常盤平駅 改札口 9:30 集合 持ち物 飲み物、雨具

問い合わせ 090-2935-9444 (高橋) その他 歩きやすい服装でどうぞ